

平成30年12月26日 新山城地域振興計画策定懇話会

第2回全体会 委員ご意見要旨

- ・「地域の将来像」を市町村が自らの地域の現実の課題として翻訳できるよう促すべき
- ・地域づくりをコーディネートする人材育成が課題
- ・お茶をめぐる状況を踏まえた取組を提案していきたい
- ・お茶の需要増には体験や製造体験も必要と思っておりそんなことも提案したい
- ・「人づくり」の視点がなく、「できあがった人に来てほしい」と読める
- ・京都やジャパンのテイストが出るような発信を
- ・どの地域でだれがやるのか、を入れてはどうか
- ・分野横断的な取り組みとして、局でモデルプロジェクトをいくつかできればいいのでは。たとえば、府南部の多様性を横断した子育てとか。地域の資源を再発掘につながる
- ・交通の記載に偏り。地域内の人のモビリティ、公共交通をどう支えていくのかが抜けている
- ・IT企業による京都での求人に対して意外にも外国人からの応募が殺到との報道を見て、京都ブランドの利用価値を実感
- ・柱の「2」と「3」に「安心」が重なっており、別の語句を使った方がよいのでは
- ・防災のソフト対策は、コミュニティの再構築と重なる
- ・人権尊重、男女共同参画といっても、いじめ、貧困等多岐にわたる
- ・人材の問題、介護やベビーシッターなどでも海外人材も増えると思うので盛り込めるか
- ・一人あたり観光消費額について、乙訓の朝堀タケノコのような鮮度重視のものは、流通が重要になる
- ・(将来像で)「環境」と「多様性」がキーワードになるのでは
- ・山城南部では大阪、奈良、中京との関わりが増すので、「山城ブランド」をいかに打ち出せるか、も課題ではないか。「京都」というとどうしても京都市になってしまいがち

- ・防災のソフト対策に具体性が見えない
- ・災害は避けられないので、おきたらよりよく戻せるためのしくみが大切
- ・「しなやかで持続可能な地域づくり」として、被災前提で、産業・農業・文化教育といった分野別で「事前復興まちづくり」を盛り込んでどうか
- ・人権等の問題が解消されないのは縦割りの弊害だと思う。縦割りを廃するためには、たとえば防災と福祉のような抱き合わせで仕掛けていくことで価値の多様性の機会を作っていくとよいと思う。農業と福祉も
- ・技能実習生についてシビアな話も聞くが、災害時に日本語が通じるように語学のサポートが大事と思う。生活の基幹部分を自己責任にすると協働のパートナーになれない
- ・人づくりとネットワークをいっしょにする仕掛けが重要。神戸や名古屋では、府県と市町村の職員がネットワークを構築して異動後も情報交換し合っている

- ・農業の記載はたしかにこのとおりなのだが、どこにでもある内容にみえてしまう
- ・若者が飛びつくような魅力ある内容にならないものか。農業の魅力を子どもたちにも伝えるようにしないと、農業が選択されないようになるのではと心配

- ・大阪から移ってきた者としては「京都ブランド」の力は強い。採用にもプラス。とっかかりでもいいから「京都ブランド」はいいと思う
- ・海外人材は労働力として渴望。ベトナム人の雇用を始めたが、その熱いまなざしはよい影響、よい刺激。日本語教育の助力があればたのもしい。
- ・「山城地域の均衡ある発展」学研から木津川右岸へ